

公共建物での防犯カメラの設置と管理で質問

6月議会における一般質問では、市民プラザなど公共建物における防犯カメラの設置と管理についても質問しました。設置の実態や設置についての基準などが明らかになりました。以下はその大要です。

【橋爪】防犯カメラというのは、犯罪を防止するというよりも抑止する力が一定程度ある。事件が起きたときに、犯罪捜査に役立つ。それと同時に、重大なのは、プライバシー

を侵害する可能性もある。だから、防犯カメラを設置するにしても、運用するにも、慎重さ厳格さが必要だ。一定の法整備も必要だ。市の公共建物における防犯カメラの管理と実態について明らかにしていただきたい。

【中川市長】現在、公の施設で、建物を有する382施設のうち、52施設において防犯カメラを設置・運用している。これらは、犯罪の未然防止、抑止力のための防犯カメラとしての機能と、施設運営上の良好な維持管理を目的とした監視カメラとしての機能を併せ持ち、それぞれの施設管理者が機器やデータの運用、管理を行っている。こうした防犯カメラの設置・運用にあたっては、「新潟県犯罪のない安全で安心なまちづくり条例」に

よる指針を踏まえ、個別の建物ごとに、対応していくこととしている。

具体的には、市役所木田庁舎や各区総合事務所、南・北出張所、教育プラザ、市民プラザ、リージョンプラザ上越の19施設においては、防犯カメラを適正に管理・運用するため、管理責任者の設置や画像データの管理、情報提供等の制限などプライバシーに配慮した要領や基準を市独自で策定し、適切に運用している。

一方、防犯カメラの管理・運用に係る基準等を作成していない33施設については、順次作成に取り組むとともに、防犯カメラを設置していない施設については、施設運営上の観点から、設置の必要性について、検討してまいりたいと考えている。



『21世紀の上越スタイル』の出版を祝う会

14市町村の合併からまもなく20年になります。これからの上越はどうあるべきかを考えようと1冊の本ができました。石塚正英編『21世紀の上越スタイル』（社会評論社、2600円＋税）です。

執筆者は頸城野郷土資料室の石塚正英さん、頸北歴史研究会の中嶋紀子さん、建築士の中野一敏さんなど32人。私もそのうちの1人です。8日にはその執筆陣などが集まり、本にかけた思い、執筆のエピソードなどを語り合いました。本は私のところにも1冊ありますので、希望される方はご連絡ください。

先日お知らせした私の10冊目のエッセイ集・『花嫁行列』はお陰様で14日に発売となります。今回も一冊1595円です。ご希望の方はアマゾンに直接注文するか、橋爪まで（携帯番号は下にあります）お知らせください。上越市内はどこでも配達します。

『花嫁行列』は14日発売



【ザクロ】ミソハギ科の落葉小高木。漢字で「柘榴」と書きます。樹高は5～6m。秋の実をよくわかっていましたが、花はどんな感じか、最近まで気づきませんでした。花期は6月～7月。赤朱色の花を咲かせます。花言葉は「円熟した優雅さ」。7月9日、妙高市長沢にて撮影しました。



はしづめ法一の活動レポート

No.2117 2023.7.16

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第七六五回 母の日記

ひと月ほど前のこと、母の健康保険証を探していて、母の寝室にあるロッカーの中に分厚い黒いノートを見つけた。

何だろろうと、めくってみてびっくりしました。母の日記だったのです。母は手紙を書くことはあっても、日記をつけるような人ではないとずっと思っていました。その母が日記を書いていた時期があったとは……。

この黒いノートは市販されていた日記帳で、二〇〇四年用となっていました。表紙をめくると、「千葉の義孝さんから送ってもらった帳面です」と書いてありました。習志野市に住んでいた叔父(故人)が母にプレゼントしたものでした。

日記は一月一日からはじまり、七月上旬まで、ほぼ毎日、書いてありました。しかしその後は、白紙状態が続き、最後は八月二十七日に書いた、「山の海のお寺、せんとく寺のおばあちゃんのおうしきです」で終わっていました。

わずかな期間であったにせよ、八〇歳当時の母の日記が残っていた。これは新発見です。どんなに小さなことでもいい。私が記憶していることでもいい。母が見聞きしたことを母が書いたもので確認できるというのはいかにもいい、と思えました。

日記は、たまに四行のこともありました。ほとんど二行か三行でした。ですから、一時間ほどで読み終えました。正直言って、「これはすごい」と思うような新発見は出てきませんでした。興味深いところがいくつも書かれています。

その一つは、牛のことについての記録です。一月三十一日の日記には、「おぎたにさんが仔牛を三頭、牛舎へ持って来られた」とありました。三月一日の日記では、「牛舎の牛が男出産した」との記述もありました。「おぎたにさん」とあるのは頸城区の家畜商の荻谷さんのことですが、母がこう

した記録を残しているとは思いませんでした。ひよっとすると、当時は父が牛飼いの現役でしたので、「おや、書いてくわい」と言ったのかも知れません。

日記の中で一番多かったのは、「お茶飲み」と青空市場や朝日池総合農場などに売った「こんにゃく」「笹の葉」「山菜」などの数量の記録です。この記録はじつにきめ細やかでした。

母は「お茶飲み」が好きでしたので、そのことが出てくるのは当然だと思いましたが、日記には、「なか」「しんたく」「さかい」「はしもとや」「みせ」などの屋号や「桑名さん」などの固有名詞がじつにたくさん書かれています。どこへ行ったかを書いておき、同じ家にかたよって迷惑をかけることが無いように配慮したのでしょうか。それにしても、母の「お茶飲み」がほぼ毎日だったのは驚きでした。

山菜などの販売記録はさらに細かいものでした。「青空市場へ夕方ネギ二五束、トウチ六束、ホウレンソウ三束」「平沢さんへワラビー三束、ウド三〇〇g十一個、ゴゴメ十二個二〇〇g」などと書いてありました。

私の記憶にも残っているものの、いつだったか分からなかったこともいくつか書いてあり、いつだったか判明しました。

川崎の山へ山菜採りに行って母がママシにかまれ、柿崎病院に入院したのは、この年の五月一日。朗読ボランティアをやっていた小田順子さんが、大島区竹平の集会所で私のエッセイの朗読をしてくださったのは八月二三日でした。ほんの数行の記述ながら、当日の様子が次々と思い出されました。面白いものですね。

母が亡くなって九か月が過ぎました。日記を再読したとき、母が愛用していた、懐かしいスカーフとも出合いました。たまには母から声をかけてもらいたいものです。

「夢まつり」、素敵な出会いいくつも

牧文化協会主催の夢まつりを観てきました。会場の体育館入り口には七夕飾りもありました。「げんきで、しぬまでしあわせにいられますように」という短冊が素敵でした。切り絵、写真、水彩画、七宝焼きなどの作品を観てきたのですが、うれしかったのは、病氣とたたかっていたAさんが元気になり、声をかけてくださったことです。また、市役所職員さんから花嫁行列のビザオも観てもらいました。ジャンルが違う作品をいくつも出している棚の



Hさんとも話が出来ました。勉強になりました。

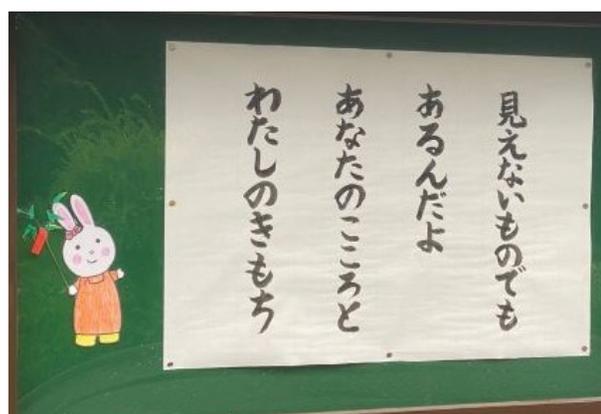
ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	7月5日(水)	7月12日(水)
上越南消防署	0.053	0.053
上越北消防署	0.047	0.040
新井消防署	0.047	0.040
頸北消防署	0.040	0.043
頸南消防署	0.057	0.067
東頸消防署	0.043	0.047
名立分遣所	0.050	0.050
高士分遣所	0.053	0.050

善長寺の掲示板



吉川区代石にある浄土真宗本願寺派寺院、善長寺の7月の掲示板です。

「見えないものでも あるんだよ あなたのこころとわたしのきもち」

わかりやすい、素敵な言葉です。隣の短冊を手にしたウサギさんの絵もかわいらしくて、いいですね。